

事務事業名	消防体制強化整備事業		会計	一般会計	実施区分	継続		
H29作成課等名	危機管理室	H29係等名	消防団係	事業種別	政策	開始	終了	
基本計画上の位置づけ	政策	4	暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり					
	施策	41	災害対策の推進					
目的	対象(誰・何を)	市民の生命財産		対象指標	指標名及び単位		28年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	生命・財産を守る			更新を必要とする消防車両台数	2		
	向上させたい上位施策の成果指標	市民が災害に備えている割合(%)			新設計画貯水トン数	0		
目標	種別	指標名及び単位		27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	車両の更新 年度更新台数÷計画台数(%)		100	100	100	0	
	成果指標	貯水の増設 年間トン数÷計画トン数(%)		100	100	0	0	
定性目標								
事業概要	<p>平成23年度から平成27年までの第10次消防力(消防団)整備計画(以下10次防)に基づき消防力の維持増強を図る。東日本大震災を契機に消防団員に求められる活動が救助等にも広がり、対応資機材の整備及び地区要望が多く出されている耐震性防火貯水槽の設置に柔軟に対応するため当初計画を平成24年度に一部変更し、平成25年度から更なる消防施設の強化を図っている。</p> <p>・飯田市消防団は平成6年度から独自の「救急療法」に取り組み、毎年消防技術大会において競い合うことにより技術向上を図っている。平成22年度からAEDをとり入れ発展させ、長野県消防技術大会において訓練発表を行った経過がある。第10次消防力(消防団)整備計画において、消防団救急救護の充実が掲げられ日常的な災害対応における活動はもとより大規模災害における救急救護の充実も期待されている。平成25年度より、消防団員の中から応急手当普及員の資格を取得し今後はさらに、応急手当指導員を育成することにより消防体制強化が継続的に図られる。</p> <p>・平成6年度から開始した女性消防団員のための救急操法も、男女共同参画が進捗し男女混合で行う機会も増えてきた。</p>							
28年度事業内容	事業内容			名称		活動指標		
	1 救助用装備品整備 2 救急用資機材			1 救助用装備品(レスキューボート) 2 訓練用ダミー人形		1 一式 2 一式		
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足		
事業費計(千円)①		75,681	29,050	1,396	27,540	【H28→29年繰越】繰越明許費 27,540千円 (起)緊急防災・減災事業債 26,000千円 (そ)コミュニティ助成 900千円		
国庫支出金								
県支出金								
起債		72,800	27,700		27,540			
その他		1,000	1,000	900				
一般財源		1,881	350	496				
人件費計(千円)②		2,146	0	2,146	0			
正規職員所要時間		600		600				
臨時職員所要時間								
総事業費①+②		77,827	29,050	3,542	27,540			
事業内容・目標達成状況の振り返り	消防自動車等の整備は全て完了。コミュニティ助成により訓練用救急ダミー、救助用ボートを配備、また、安全装備品としてケブラー手袋を貸与し団員の安全性を高めた。							
改革改善の考え方	①問題点	道路交通法の改正により各免許で運転できる自動車の範囲が限定され、普通免許では現状の積載車以上の車両が運転できなくなった。						
	②改革提案	救助資器材等を積載した消防車両(多機能積載車)を導入し大規模災害に備えるとともに、安全装備品の充実や消防団員が扱いやすい消防機材などを研究しながら、一方で車両の軽量化など業者に具申する必要がある。						